



〈雜錄〉國際的勞働者保護運動ノ進捗(2)

徳重, 伍介

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 17(4):679-692

(Issue Date)

1914-10

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052276>



國際的勞働者保護運動ノ進捗 (其二)

商學士 德 重 伍 介

三

最近千九百十三年九月十五日、瑞西聯邦國ハ次ノ通牒ヲ發シテ國際勞働者保護會議ヲ召集セリ。

『勞働者保護ノ問題ヲ國際的合意ヲ以テ統一セントスル努力ハ、カノ千九百六年九月二十六日ニ締結シタル婦人夜業禁止及燐寸製造業ニ於ケル白燐使用ノ禁止ノ二協約ニヨリテ先ヅ第一ノ成果ヲ收メ得タリ。然ルニ昨年勞働者保護法國際協會ハ更ニ新提案ヲ齎ラスニ至レリ。ソハ幼少年勞働者夜業禁止及工業ニ従事セル婦人竝ニ幼少年勞働者ノ勞働時間ヲ十時間以内ニ制限スルニ在リ、國際協會ハ此二問題ヲ覺書トナシ、千九百十二年十月二十六日及十二月三十日ニ提案ヲ作り以テ討議ノ基トナセリ、是レ國際的協賛ヲ得テ實現セラレザル可ラザル所ノモノナリトス』。

曩ニ千九百六年ノベルン協約ニテ國際協會ノ提案トシテハ、女工ノ夜間休止ヲ十二時間タラシムルニ在リシガ、當時カ、ル規定ヲ設クルモノ極メテ少ナク、爲ニ十一時間ヲ以テ協約ヲ締結スル事トナリシ也。若シ國際協會ノ提案ノ儘ニ通過セシナランニハ、間接ニ婦人最長勞働時間ハ十時間内外ニ制限セラル、事トナリシナルベシ、然ルニ獨逸及和蘭ハベルン協約後數年ナラズシテ最長勞働時間ヲ十時間トナシ、一般工業又漸次勞働時間短縮ノ機運ニ向ヒシヲ以テ、英佛獨等ノ主ナル諸國

ハ女工及幼少年工ノ勞働時間ニ關スル規定殆ド相一致スル事トナリ、其最長勞働時間十時間ヲ廣ク國際的規定タラシメ、以テ總テノ競争國ヲ羈束セント欲シ、多數ノ工業者又之ニ賛同シ茲ニ各國ニ於ケル是等ノ法規ト其施行後ノ成績ヲ覺書トシテ國際協會ノ提案タラシムルニ至レリ。

抑々婦人勞働者保護ノ論據ハ、ソガ特種ノ職務及素質ヲ有シ、成年男工ト同一視シ得ベカラザル點ニ在リ、婦女ハ一般ニ其身體纖弱ニシテ戸外ノ激務ニ堪ヘ難ク、且特種ノ生理的機能ヲ有スルガ爲ニ工場勞働ノ如キハ其健康上ニ著シキ惡影響ヲ及ボシ、殊ニ既婚ノ婦人ニアリテハ家族ノ中心トナリ家政ヲ整ヘ子女ノ哺育教養ヲ司ドルノ任務ヲ有スルヲ以テ、其勞働ニ制限ヲ加ヘザレバ是等ノ重要ナル職務ハ等閑ニ附セラレ、延イテハ家族ノ根柢ヲ動搖セシメ、將來ノ國民ノ體質ヲ孱弱ナラシムルニ至ルベシ。故ニ婦人勞働者ノ保護ハ一方ニ母體ノ保護タルト共ニ他方ニ幼兒子女ノ保護家族ノ保護タルモノナリ。

幼少年勞働者ハ勞働者保護法中特種ノ地位ヲ占ム、是レ幼少年ハ未ダ身心ノ發育充分ナラザルガ爲ニ成年勞働者ト同様ノ激務ニ關與セシムベカラザルト、將來ニ於ケル完全ナル勞働者トシテ教養ヲ享ケシムルノ必要アルガ爲ナリ、目前ノ營利心ニ驅ラレテ教育時代ノ幼少年ヲ工場勞働ニ服セシムルハ、啻ニ其肉體ヲ害ハシムルノミナラズ、自制心ナキ彼等ハ往々放縱淫逸ニ慣ヒ、無賴ノ徒ト化シ、社會風教ヲ害スルニ至ル、殊ニ成年勞働者ノ如ク團結ニヨリテ自衛ノ策ヲ講ズル能ハザル彼等ハ法律ノ保護ニ俟ツノ外無キ也。

カ、ル理由ヨリ各國風ニ女工及幼少年工ノ保護規定ヲ設ケ、千八百九十年ノ伯林國際勞働者保護會議ニ於テモ既ニコノ兩案ヲ含ミ、千九百六年ノベルン協約ニテハ女工ノ夜業禁止ヲ規定セシガ、千九百十三年ノ國際協會ニ至リテ遂ニ滿十八歲以上ノ幼少年工ヲシテ夜業ヲ禁止セシムル事及其勞働時間ヲ女工ト共ニ二十時間以內タラシムル事ヲ議決セリ。

今其議決ノ内容ヲ見ルニ、夜業禁止ハ教育義務年限ノ終了セザル者及滿十四歲以下ノ者ニ對シテハ場合ノ如何ヲ問ハズ絶對的ニ適用スベキモノニシテ全然例外ヲ認メザル事、十四歲ヨリ十八歲ニ至ル者ハ千九百六年ノ女工規定ト同ジク少クトモ十一時間ノ繼續休養ヲ要求シ得ル事、但シ不可抗カニヨル工場ノ不秩序及速カニ變敗スベキ恐アル原料加工ノ場合ニハ此ノ限りニ非ザル事、季節工業又ハ特種關係ノ下ニ在リテハ一年ヲ通ジテ六十日間夜間繼續休養ヲ特ニ二十時間ニ短縮シ得ル事、但コノ短縮ハ十六歲乃至十八歲ノ者ニノミ適用セラル、事、十六歲乃至十八歲ノ勞働者ニ對シテハ次ノ場合ニ限り夜業禁止ノ實施ヲ五箇年間延期シ得ル事トセリ。

イ、硝子壘及窓硝子製造工業——溶解爐ヨリ硝子ヲ取り出シテ加工スル勞働者ニ適用ス。

ロ、金屬工業——鍛鐵工業勞働者及軋軋工業勞働者(Hammer-und Walzwerkarbeiter)ニ適用ス。

以上二ツノ場合ニモ上記ノ過渡期限ハ各國ノ法律規定ニヨリ制限セラレ得ベク、且夜業ニ從事スベキ幼少年工ハ其作業ヲ完成スルニ必要ナル數ニ限定セラルベキモノトス。

カクノ如ク國際協會ニテハ勞働者保護年齡ヲ十八歲迄トナシタルガ、從來十六歲主義ヲ採用セシ

諸國ハ之ヲ十八歳ニ引上グルニ就テ是非ノ論甚ダシク、殊ニ其晝夜繼續工業ニ及ボス影響ノ如何ハ是等諸國ノ最モ注意スル所ナリキ、勿論身心發達ノ程度ハ、國ニヨリ氣候風土ノ如何ニヨリテ、異同ヲ免レザル可キモ、概シテ言ヘバ、十六歳前後ハ發育旺盛ノ時期ニシテ、成年ニ比較シテ其ノ生理的器能ノ發達未ダ充分ナラズ、從ツテ同一ノ勞働ニ服セシムル能ハザル事情アルヲ常トス。如何ナル軍國ニ於テモ其徵兵適齡ヲ十六歳トセルモノアルヲ聞カズ、コレ未ダ其體質ガ重大ナル任務ヲ盡スニ充分ナラザルヲ證スルモノニ非ズシテ何ゾ、工業上ニ於テモ略ボ同様ノ言ヲ繰リ返スヲ得ベシ殊ニ生理學者ノ研究ニヨレバ、貧困ナル兒童ノ發育ハ之ヲ富裕ナル兒童ニ比シテ一般ニ劣ル由ナルガ、(註若シ之ヲ事實トスレバ勞働者ノ如キ貧困ナル少年ハ其保護ヲ要スル事更ニ大ナルヲ知ルベキ也、勞働者國際協會ガ保護年齡ヲ十八歳ニ延長シタルハ穩當ナル規定ナリト言ハザル可ラズ。

註 入學ノ際ニ同様ノ體質ヲ有スル貧富ノ二小學生モ其四年後ニ於テハ平均後者ハ前者ヨリモ身長約七%胸圍四%體量六%ノ増加アリト(Quinseid: Zeitschr. für Schulgesundheitspflege, angeführt bei L. Teleky, Altersprobleme gewerblicher Hygiene 1913.)

既ニ法律規定ヲ以テ保護年齡ヲ十八歳トシ其夜業ヲ禁止セルハ丁抹、諾威、瑞典、フィンランド、佛蘭西、英國、瑞西、希臘及セルビアノ諸國ナリトス、其中十一時乃至十二時ノ夜間休養ヲ規定スルハ僅ニ瑞典、英國及希臘ノ三國ニテ、瑞西、丁抹、諾威、セルビアハ十時間、フィンランド及佛蘭西ハ八時間ナリ、故ニ國際協會ノ提案ニ適合スベキ保護規定ヲ採用セルハ瑞典、英國、希臘ノ三國ニ過ギズ。其他ノ國ニ就テ見ルニ、和蘭、リヒテンスタインハ其保護年齡ヲ十七歳トシ、夜間休

養時間ハ前者十一時間後者九時間トス、獨逸、ルクザンブルグ、奧太利、匈牙利、ボスニヤ、白耳義ハ十六歳トシ、伊太利、ブルガリア、ルーマニア、露西亞ハ十四歳、西班牙、葡萄牙ハ各々十四歳及十二歳トナス。是等ノ諸國中夜間休養十二時間ト規定セルハブルガリア、十一時間トセルモノニ獨逸、和蘭十時間ニ伊太利ルーマニヤ、西班牙、葡萄牙アリ、其他ノ國ハ八時間乃至九時間ナリ之ニヨレバ白耳義、伊太利、西班牙、葡萄牙ハ國際協會ノ提案ヲ採用スルニハ未ダ其時期ニ非ザルガ如シ。

上述ノ如ク夜業禁止ハ其發育ノ途ニアル幼少年工竝ニ體質ノ孱弱ナル女工ニトリテ特ニ必要ナルモノナレドモ、時ニ其除外例ヲ認メザル可ラザル事アリ、不可抗力ノ場合及技術上經濟上ノ必要ニ基ク場合等是ナリ。之レ國際協會ガ千九百六年ニハ一般女工ニ、千九百十三年ニハ十六歳乃至十八歳ノ少年工ニ例外規定ヲ設クル所以ナリトス、後ニ説クベキ延長勞働又之ト密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ、一般的規定ハ後ニ譲リ、爰ニハ幼少年工夜業禁止ニ關スル各國ノ例外規定ノミヲ述ベントス、カ、ル規定ハ主トシテ技術上其作業ノ中斷ヲ許サザル晝夜經營ニ見ル所ニシテ、火熱ヲ使用スル工業殊ニ硝子工業、鐵工業ニ於テ然リ英國ハカ、ル工業ニ十四歳乃至十八歳佛蘭西ハ十二歳乃至十八歳少年工ノ夜業ヲ許可セリ、白耳義ニテハ十四歳ノ少年工十時間半ノ夜業ニ就キ獨逸ニテハ十四歳ノ少年工十時間、奧太利又同ジク十四歳ノ少年工十一時間ノ夜業ニ就ク事ヲ認ム、瑞西ニテハ聯邦參議院ガ認メテ「少年工ノ協働缺グ可ラズシテ且其職業習得ニ必要」ナル場合ニ限り其夜業ヲ許可スルコト、セリ、然レドモ概シテ言ヘバ是等諸國ノ規定ハ寬ニ失スルガ如シ、元來火熱工場ニ出

入スル勞働者ハ、其勞働ノ性質上自然酒類ニ對スル慾望ヲ生ジ、從ツテ他ノ工場ヨリモ作業上ノ過失多ク、且非衛生的ニシテ疾病ノ割合又甚ダシキヲ常トスルガ故ニ幼少年工ヲ使用スルハ最モ危險ナル事ニ屬ス。佛蘭西金屬工業ニ於テ幼少年工ノ過失疾病ハ成年工ノ二九・八五%ニ對シテ三四・四%ノ割合ヲ示セリ、今日幼少年工ガ是等ノ火熱工業ニ使用セラル、ヲ見ルニ、多クハ一時的ニシテ低廉ナル賃銀ヲ以テ夜業ヲ強ヒラレ、其業務ノ習得未ダ充分ナラザルニ、一定ノ年齡ニ達シテ一人前ノ賃銀ヲ要求スルニ至レバ直ニ解雇セラル、ノ有様ニシテ、業務習得上夜業ハ却ツテ障害トナル事アルモ決シテ必要トセラル、事ナシ。(註)且夜業ハ屢々背德行爲ヲ伴フモノトス、殊ニ性慾發動期ニ於ケル思想堅固ナラザル年少者ニ然リ、コレ獨逸工業監督官又ハ米國勞働局等ノ報告ニ明カナル所ニシテ、年少犯罪者ノ職業統計ヲ見ルモ夜業ヲナセル工業ニ於テ特ニ其著シキヲ見ルベシ、故ニヨシ徹夜業ヲ必要トスル工業ニ在リテモ出來ル丈ケ幼少年工ノ使用ヲ禁止セザル可ラズ、其禁止ニヨリテ企業者ノ蒙ルベキ損害ハ數フルニ足ラズ、幼少年工夜業ノ禁止ハ多ク技術上ノ改良ヲ促シ器械ノ使用トナリ、カ、ル餘地ナキ場合ニアリテモ成年工ニヨリテ補充セラルベキハ既ニ十六歳以下ノ幼少年工ノ夜業ヲ絶對的ニ禁止セル和蘭、諾威、西班牙及瑞典ノ經驗セル所ニシテ、國際協會ガ同様ノ規定ヲ採用シ唯十六歳以上十八歳以下ノ少年工ニ對シテノミ五箇年ノ過渡期限ヲ附シタルハ妥當ノ處置ナリト言ハザル可ラズ。

註 佛蘭西硝子工業ノ徒弟教育制度ニ就イテ Valenciennesノ工業監督官ノ報告スル所次ノ如シ、

“ Quelques enfants se sont enfuis et ont été retrouvés sans un sou, mourant de faim et de froid dans la saison d'hiver. Que pensant devenir ceux qui restent ? Sur 900 à 1000 enfants qui ont passé par cette école d'apprentissage, 5 ou 6 au plus sont devenus verriers. Ce sont ceux-là que l'on présente. Mais les autres ! A l'âge où les enfants ont besoin d'air, de lumière, de coverit, ils sont exposés à un travail déprimant, à la brutalité des contremaitres, quelquefois der directeur, quand ce n'est pas des ouvriers..... puis, pendant le reste du temps, condamnés à l'immobilité. Et le régime dure jusqu'au jour où, écoeurés, anéantis, sans aucune ressource, ils fuiront pour retrouver un peu de cette liberté qui leur est si chère et dont ils ont si besoin. ” Rapports sur l'application des lois réglementant le travail en 1910. Ministère du Travail, Paris 1911.

次ニ國際協會ノ第二ノ提案タル十八歳ニ至ル幼少年工及一般女工ノ最長労働時間ヲ十時間ニ限定セルハ、現今英國(纖維工業ノミ)佛蘭西、セルビヤ及希臘ノ四國ナリ。英國ニテハ纖維工業以外ハ總テ十時間半労働トシ、土曜ノミハ七時間半トナスヲ以テ、一週總計六十時間ノ割合ナリ、丁抹及諾威又十八歳ニ至ルマデ十時間労働ヲ規定スルモ女工ニ對シテハ此適用ナシ、獨逸、和蘭、ブルガリア、ルーマニア、同ジク十時間労働ヲ採用スルモ、獨逸ハ十六歳、和蘭ハ十七歳、ブルガリア、ルーマニアハ十五歳迄ニ制限セラレ、殊ニ最後ノ二國ハ一般婦人ニカ、ル制限ヲ設クル事ナシ、一般男女工ニ對シテ十一時間労働ヲ規定スルモノニ奧太利、ボスニア、リヒテンスタイン、瑞西アリ十一時間半労働ヲ規定スルモノニ露西亞アリ、伊太利ノ如キハ女工ニ十二時間労働ヲ規定シ、又白耳義、西班牙、匈牙利、ルクセンブルグ、葡萄牙ハ夜業禁止ニヨリテ間接ニ女工最長労働時間ヲ同ジク十二時間トス、就中白耳義ニ至ツテハ行政法ニヨリ特種工業ニ對シテハ十六歳以下ノ幼少年工ニモ十二時間労働ヲ許可セリ。

カクノ如ク法律規定ノ上ヨリ見レバ各國最長勞働時間ハ千差萬別ノ有様ニテ、之ヲ國際的ニ統一
スルガ如キハ容易ノ業ニ非ザルガ如キモ、實際ニ於テ各國職工組合ノ活動ハ漸次勞働時間ヲシテ理
想的標準ニ向ハシメツ、アルヲ以テ、幼少年工及女工ノ十時間勞働ハ決シテ尙早ノ論ナリト言フ可
キニ非ズ、例ヘバ十一時間ヲ以テ法定勞働時間トスル瑞西、奧太利ニ於テ見ルモ各工場ニテ實際ニ
採用スル勞働時間ノ割合ハ次ノ如シ(保護勞働者ヲ百トス)。

瑞 西

九時間以下

十時間以下

十時間以上

一八九五年

二・〇

三四・〇

六六・〇

一九〇一年

三・三

四六・〇

五四・〇

一九一一年

八・二

六五・〇

三五・〇

奧 太 利

一八九九年

四・一

三四・〇

六六・〇

一九〇六年

九・二

五三・〇

四七・〇

和蘭ニテハ千九百十一年十時間勞働ヲ採用セシガ、其實施以前ニアリテ既ニ十時間ニ向ヒツ、ア
リシハ次ノ統計ニヨリテ知ル事ヲ得ベシ(百人ノ保護勞働者即女工及十六歳以下ノ幼少年工ニ就テ
調査シタルモノ)。

十時間以内

十時間以上

一八九五年

四一・〇

五九・〇

一八九九年

四六・〇

五四・〇

一九〇八年

四七・〇

五三・〇

試ニ勞働者團結ノ強弱如何ト勞働時間ノ長短トノ關係ヲ見ルニ、英國ニテハ保護勞働者七百萬人中三百萬人ハ團結ヲナシ、丁抹ニテハ十八萬ノ工業勞働者中十二萬人團結シ、白耳義ニテハ百二十六萬七千人ノ勞働者中十九萬人ノ團結ヲナス、即英ノ $\frac{3}{7}$ 、丁ノ $\frac{5}{7}$ ニ對シテ白ハ僅ニ $\frac{1}{7}$ ノ勞働者團結ヲ見ルノミ、而シテ丁、白二國ニ於ケル百人ノ勞働者中、其就職勞働時間ノ割合ヲ示セバ次ノ如シ。
(兩國共ニ女工ニ對シテハ最長勞働時間ノ制限ナシ)

丁 抹

九時間以内

十時間以内

十時間以上

一九〇六年

一一・一

九一・〇

九・〇

其中

七・〇

八三・〇

一七・〇

纖維工業
金屬工業

一六・〇

九四・〇

六・〇

白耳義

一八九六年

一一・三

四三・〇

五七・〇

其中一九〇一年

二・〇

九・〇

九一・〇

纖維工業

三・〇

五三・〇

四七・〇

金屬工業

一・〇

五二・〇

四八・〇

十六歳以下ノ者

白耳義ニテモ勞働者團結ノ比較的完美セル金屬工業ハ勞働時間又短キヲ知ルベシ。

女工幼少年工ニ對シテ平均一日十時間以内ノ勞働ヲ規定シ、纖維工業ニハ特ニ九時十五分ニ制限セル英國ニ就テ見ルニ、百人ノ勞働者ノ勞働時間ノ割合ハ左ノ如シ。

一九〇六年

九時十五分以內

十時間以內

十時間以上

纖維工業

九二・九

九九・三

〇・七

金屬工業

五一・二

九九・〇

一・〇

全國ニテハ大工業中平均九時間勞働ヲ實行スルモノ多ク、法制ト勞働者團體トハ兩々相俟ツテ益々理想的勞働時間ニ向ヒツ、アリ。

前ニモ述べタルガ如ク特種ノ工業ニ在リテハ技術上經濟上ノ理由ニヨリテ、一定期間又ハ時々臨時延長勞働ヲ要スル事アリ。斯ル場合ニハ又例外的規定ヲ認メザル可ラザルハ勿論ナルモ、濫リニ制限ヲ寬フスル時ハ最長勞働時間制定ノ效果ヲ失フノ虞アルヲ以テ、豫メ一箇年內ニ勞働時間ヲ延長シ得ベキ日數及延長勞働時間ノ最高限度ヲ規定スルヲ常トス、先ヅ十時間又ハ十一時間勞働ヲ規定セル國ニ於ケル延長勞働時間ノ制限ヲ見ルニ、英國ニテハ「工場仕事場法」ニヨリ纖維工場女工及十八歳以下ノ幼少年工ノ延長勞働ヲ禁ジ、纖維工場以外ニテハ一年ヲ通ジテ六十時間ニ制限シ同時ニ一週ヲ通ジテ三日以上ニ亘ルベカラズトセリ。佛蘭西ニテハ季節工業及變敗シ易キ原料ヲ使用スル工業ニ對シテノミ一年ニ百二十時間ヲ認ム、獨逸ニテハ營業法ニテ十六歳以下ノ幼少年工ハ如何ナル工業ヲ問ハズ延長勞働ヲ禁ジ、女工ニ對シテハ一年八十時間ヲ許可ス。奧太利瑞西ノ二國ハ成年男工ニ十一時間勞働ヲ規定セルガ、前者ニアリテハ延長勞働時間ヲ一年百八十時間トシ後者ハカカル規定ナキモ聯邦及各「カントン」行政ニテ之ヲ制限スルヲ得ル事トセリ、カクノ如ク各國ノ延長勞働ニ關スル制限規定ハ比較的寬カナルモ、實際ノ統計ニヨレバ其限度ニ達スル程度ニ之ヲ利用セル

モノナシ。例ヘバ獨逸ニテハ女工ニ對シ八十時間ノ延長勞働ヲ認ムルモ、過去五年間ニ於ケル平均延長時間ハ十三時乃至十五時間ニ過ギズ、奧太利又百八十時間ヲ認ムルモ平均五十七時間乃至六十二時間ノ延長勞働ヲ見ルノミ、コ、ニモ亦法律規定及工業經營ノ實際ハ必ズシモ相一致セザルヲ知ルベシ、千九百六年第一回國際協約ノ制定セル延長勞働時間ハ英國ノ纖維工業以外ノ工業ニ適用セラルベキ規定ト相一致スルモノニシテ、一年ヲ通ジテ六十時間以上ヲ許可セザルニアリ、其適用アル場合ハ次ノ如シ。

一 豫メ洞察不可能ニシテ廻歸的ナラザル經營停止ノ場合（而シテ其原因ハ不可抗力ニ基クモノナル事ヲ要ス）

二 腐敗速カナル原料目的物ノ加工變形ヲ爲スニ當リ是等材料ノ蒙ルベキ損失ヲ豫防スルニ必要ナル場合

三 四季ノ影響ヲ蒙ル工業（季節工業）及一般經營ニシテ非常特別ノ關係ノ下ニアル場合

以上ノ場合ニモ一日一時間以上ノ延長ヲ許サズ又一年ヲ通ジテ六十時間以上ノ延長ヲ許サルモノトス。

千九百十三年ノ國際協會ハ幼少年工ノ夜業禁止ノ效果ヲ確實ナラシメンガ爲ニ、既ニ述べタルガ如ク工場ニ於ケル十六歳以下ノ幼少年工ノ延長勞働ヲ絶對ニ禁ジ、十六歳乃至十八歳ノ者ニ對シテノミ右ノ場合ニ例外ヲ認ム。

勞働時間ニ關聯シテ重要ナルハ食事時間及休息時間ノ規定ナリトス。工場法ヲ設クルノ國ニシテ一時乃至二時間ノ休息時間ヲ規定セザルハ稀ナリ、然ルニ國際協會ガ之ニ關スル規定ヲ缺ゲルハ、元來休息時間及其度數ノ如キハ全然地方的習慣的ニ決定セラルベキモノニシテ、國際的ニ統一ヲ圖ル事困難ナル事情アルヲ以テナリ、然レドモ是等ノ規定ハ最長勞働時間及延長勞働時間ト相俟ツテ勞働者ノ健康上缺グ可ラザルモノナレバ、適當ナル範圍内ニ其最短制限ヲ規定スルノ必要アルハ勿論ナルベシ。

四

勞働者保護法ヲ進ンデ國際的規定ヲラシメ、以テ勞働者ノ地位ヲ普遍的ニ上進セシメントスルノ運動ハ其理論上ノ缺點及實際上ノ困難ヨリシテ一部ノ學者政治家ニ冷遇看過セラレシニモ拘ラズ、千八百九十年ノ伯林國際勞働者保護會議ヲ始メトシテ會ヲ重ヌル事數回協約ヲ締結スル事二回ニ及ベリ。素ヨリ其ノ協約事項ハ之ヲ勞働者保護法ノ内容ヨリ見レバ僅ニ其一部ニ過ギザレドモ、其齎セシ效果ハ決シテ小ナリトセズ。千九百六年ノ女工夜業ノ禁止及白燐使用禁止ノ協約ニ於テ見タルガ如ク、幼少年工ノ夜業禁止及女工幼少年工ノ十時間勞働協約又後進國ノ模範トナリ、後進國ヲ鼓舞激勵シテ其輿論ヲ動カシ、協約ニ基ク新法ノ制定舊法ノ改正ヲ促シ、漸次協約國以外ニモ浸潤普及セシメテ工業ニ鬱積セル宿弊ノ一部ヲ除去輕減セシムルニ至ルベキハ期シテ俟ツベキ也。

勞働時間ノ短縮勞働條件ノ改善ハ結局勞働效程ノ増進トナリ、國民經濟ノ健全ナル發達ヲ來スベ

キハ今日一般ニ學說經驗ノ認ムル所ニシテ、各國ノ保護規定ヲ一樣ナラシムルニ非ザレバ獨リ自國勞働者ノ地位ヲ上進セシムル制度ヲ採用スル能ハズト唱フルガ如キハ撞着甚ダシキガ如キモ、勞働者保護法ノ制定ハ一時企業者ノ負擔力ヲ大ナラシメ、其競争能力ヲ減殺セシムル事ナキヲ保セズ。勿論一國ノ文化發達ノ上ヨリ施設スル保護法ノ犠牲トシテ、一部ノ企業者勞働者ニ不利益ヲ及ボスハ止ムヲ得ザル事ニシテ、殊ニ其不利益ヲ蒙ル事最モ甚ダシキハ普通幼童ヲ虐使シ過度ノ勞働ヲ強ヒ過少ノ賃銀ヲ支拂フ寄生の工業ナレバ、其疲弊滅亡ハ國民經濟上却ツテ慶賀スベキ事ナレドモ、特種ノ工業ニ對シテハ時ニ保護ヲ加ヘ企業者ノ負擔ヲ減輕スルノ必要ヲ見ル事アリ、カ、ル場合ニアリテハ國際的協定ニヨリテ犠牲ヲ少クシ、勞働者保護ノ目的ヲ容易ナラシメ得ベキハ言ヲ俟タズ。國家ハ他國ノ社會的改良ヲ促サンガ爲ニ國際的協定ニ加入スルノ義務ナキハ勿論ナルモ、國內一部企業者ノ反對ヲ唱フル餘地ナカラシメ、シカモ勞働者ノ地位ヲ上進改善セシメンガ爲メニ國際的協約ヲ結ンデ其步調ヲ共ニスル、又必ズシモ批難スベキニ非ザル也。

國際的勞働者保護協約ノ批難最モ甚ダシキハ其實施監督ノ困難ナル點ニ在リ。カノビスマークノ如キ「世界工業監督官」ノ選任ヲ以テ架空ノ論ナリトシ、國際協約運動ヲ一笑ニ附セシモ、今日其ノ實行ヲ監視セシムルニハ必ズシモカ、ル特種機關ノ設置ヲ要セズ。試ミニ獨逸ニ就キテ之ヲ見ヨ、同國工場法ノ實施機關トシテハ各聯邦國ニ工業監督官ヲ有スルノミニシテ未ダ獨逸國工業監督官ナルモノ無シ、シカモ同國工場法實施ノ上ニ何等ノ支障ヲ見ザルニ非ズヤ、國際的保護協約又斯ノ如キ

ノミ、協約國ニ於ケル實施機關ヲ利用シテ其監督ニ當ラシメ其結果ヲ比較考量スルニヨリテ相互的ニ鞭撻激勵シ、以テ國際監督ノ實ヲ舉グル事決シテ困難ナリト言フ可カラズ、尤モ國際間ノ協約ハ勞働者保護ニ限ラズ、スベテ其實施ヲ強制スル事國內ニ於ケルガ如ク容易ナラザルハ勿論ナルモ、一國ノ體面上濫リニ協約ヲ蹂躪シテ利己心ノ趣クガ儘ニ振舞フガ如キハ實際ニ不可能ナリト言フベシ。要之國際的勞働者保護運動ハ僅ニ議論ノ時代ヲ脱シテ實行ノ緒ニ就キタル試驗時代ニ過ギズ。隨ツテ未ダ遠カニ其將來ヲトスル能ハズト雖モ過去ニ於ケル保護運動ガ齎ラセル效果ヲ以テ推セバ其前途ニ多大ノ望ヲ屬スル事強チ不當ニ非ザルヲ信ズル者也。(完)

參考書

Francke, Der internationale Arbeiterschutz.

Herker, Die Arbeiter Frage.

Stephan Bauer, Fortgang und Tragweite der internationalen Arbeiterschutzwertrege. (Annalen für Soziale Politik u.

Gesetzgebung III Bd. I u. II Heft)

E. Mahaim, Die geschichtlichen Motive des internationalen Arbeiterschutzes. (Vierteljahrsschrift für Sozial- u. Wirtschafts-

geschichte, Bd. I)

關博士、勞働者保護法論。